新根占中学校が開校

近代的な学び舎完成

根占町

肝属郡根占町内の3中学校を統合した新生・根占中学校がこのほど完成、8日、開校式と入学式が開かれ、同校の屋内運動場で、在校生、町教育関係者、教職員らが出席して新たな歴史を刻む開校を祝った。

根占町山本地区に完成した根占中学校

生徒数の減少に伴い登尾、滑川、根占の3中学の統合計画が平成9年に中学校統合問題協議会と統合推進本部として立ちあがり、高台の山本地区に建設が進められてきた。

総敷地面積は約9万7000平方㍍、総事業費は25億3000万円。校舎はRC造2階建て、普通教室7室にパソコン室、調理室など特別教室12室。中庭には龍の噴水を備えたドラゴン広場、1階に剣道場と柔道場、2階にはエレベーター付きの体育館がある。特色としては80㌔ワットの太陽光発電システムを活用して各設備で運用し、余った電気は売電する。

施工業者等は次の通り。

同校新築＝東急建設・成武建設JV▽屋内運動場・武道館建設＝五洋建設・大村工務店JV▽屋外運動場整備＝スポーツテクノ和広　百次建設▽成武建設▽同照明施設整備＝栗牧電設▽同校植栽＝立神緑地建設▽同校太陽光発電設備設置＝東急建設▽プール建設＝水谷工務店▽設計＝下舞建築設計事務所

鹿児島高等技術専門校入校式

26人が技能士の道へ

鹿児島高等技術専門校（鮫島純男校長）は9日、鹿児島市の同校で14年度入校式を開き、新たに新設された畳科を含む8訓練科に合わせて26人が入校し、技能士の道を目指し新たなスタートをきった。

式では、初めに鮫島校長が「各事業所のご理解のもと、皆様方は知識と技能、職業人としての人格の育成などを学ぶ機会を得ました。今年度より、県の認定を受け畳科も新設されます。途中でくじけることなく、やり遂げてほしい」と挨拶。森山清隆鹿児島市職業訓練協会長が「新たな決意と希望を持ち、初心を忘れずに頑張ってほしい」と励ましの言葉を寄せた。続いて、来賓の富永文治県職業能力開発協会専務理事らが祝辞を寄せた。

このあと、在校生代表の木造建築科・田島工さんが「皆様に対する各事業所の期待は大きい。初志貫徹の気持ちで、修了書を手にできるよう頑張ります」と誓いの言葉を述べた後、鮫島校長から建築塗装科の穂満武尊さんに教科用図書が手渡された。

専門技術と知識を身に付けて――と挨拶する鮫島校長
＝鹿児島市の同校で

木陰

川畑 孝則

調所の改革

小泉内閣が、昨年4月に誕生してちょうど1年になる。その間「聖域なき構造改革」をかかげ、行財政改革や不良債権処理など現在日本が置かれている厳しい状況に対処してきた。成果に対する評価はまだまだということだろうが、いずれにしろ改革は避けて通れない課題である。その小泉首相が、最初の所信表明演説で改革に取り組む姿勢の例えに挙げたのが、長岡藩に伝わる「米百俵」の話だった。今の痛みに耐えて明日をよくしようという心構えを言ったものだが、鹿児島ということを考えると、私たちを取り巻く状況は薩摩藩主島津重豪公の命により調所広郷（ずしょひろさと）が行った藩財政改革が参考になると思う。

幕末のころの薩摩藩は財政が逼迫し、藩の借金は1827年（文政10年）には500万両に達していた。そこで重豪公は側用人あがりの調所広郷を家老に抜擢し、10年間で50万両の積立金を作ること、500万両に及ぶ借金の証文を取り戻すことを命じた。そして調所は苦労の末8年後に500万両を250年賦償還に改めさせ、事実上借金の踏み倒しに成功し、その後も経費の削減、農地改革、交通網・治水の整備などの改革を推進する一方、いわゆる密貿易の拡大、殖産事業、黒糖の専売など多くの事業を行った。そしておよそ10年後には50万両の蓄えがあったといわれる。

緊縮財政や不良債権処理など現在の改革も同じような状況にあるが、私たちが学ぶべきは、10年かけて必死に努力し改革を成し遂げた調所の命を賭けた真摯な姿ではなかろうか。残念ながら、調所は斉彬公との対立のため密貿易の罪を負い自害に追い込まれ、その後明治になっても不名誉な状況にあったが、最近になり天保山公園に銅像が建立されるなど、その功績と名誉が称えられるようになったのは喜ばしいことである。

なにしろ明治維新の原動力は薩摩であり、それを支えたのは調所による財政改革の成功であり、その後の桧舞台での西郷や大久保など多くの人材の活躍によるものだからだ。

翻ってわが業界を見ても、今後10年ぐらいはさまざまな痛みに耐え頑張らなければならない時代になると思う。温故知新、歴史に学ぶとはよく言われるが、調所広郷の改革も財政学、経済学の面からもっと研究がされていいと思う。

（南生建設㈱代表取締役副社長）

南薩造園建設業協会 春祭り2002に参加

ガーデン等で賑わう

南薩造園建設業協会（中島辰雄会長）は6日、加世田市の県立吹上浜海浜公園で行われた、県地域振興公社主催の「春祭り2002」に参加、協会員らが作成したコンテスト・ガーデンや、家庭栽培のアドバイスをする緑の相談コーナー、苗の販売コーナーは、多くの来場者で賑わった。

同協会の参加は、県地域振興公社が吹上浜海浜公園でのイベントを、初めて春に開催するとのことで、日頃管理などでお世話になっている同協会が、同園に対する恩返しと、地域住民への感謝の意味を込めて参加したもの。

当日は、あいにくの天候にもかかわらず、朝から大勢の家族連れらが訪れ、同園入り口に設置された同協会のブースには、植物の苗などを購入する人が大勢訪れ、市価の半値以下で販売されている苗木などに、驚きながらも喜んで購入する来園者の姿がいたるところで見受けられた。また、鉢植えや栽培のアドバイスまでしてくれるとあって、ブースの前は来場者で終日絶えなかった。

中島会長は「今回は、同園に対する感謝の気持ちと、来園者の皆さんに緑の素晴らしさと、生活には欠かせない植物の素晴らしさを知っていただくために参加した。予想以上の反響で非常にうれしく思う。今後も継続的に参加していきたい」と語った。

多くの来園者で終日賑わった春祭り2002
＝加世田市の県立吹上浜海浜公園で

九州地区溶接技術競技会

来月19日に鹿児島市で

九州地区溶接技術検定委員会主催の14年度九州地区溶接技術競技会は5月19日、鹿児島市のポリテクセンター鹿児島で開き、本県から5人の選手が出場する。また、日本溶接協会主催の14年度全国溶接技術競技会は10月19、20日、広島県のポリテクセンター広島で開催され、本県から2人の選手が参加する。

九州地区競技会には、アーク溶接の部に下之園和也氏（三洋工機㈱）、奏洋一郎氏（九州旅客鉄道㈱鹿児島総合車両所）、若松幸司氏（㈱相良製作所）、半自動溶接の部に外薗誠氏（三洋工機㈱）、西卓己氏（㈱相良製作所）が出場、全国競技会には下之園、外薗の両氏が参加する。

きょう、開通式

垂水港「垂水大橋」

県鹿屋土木事務所は10日午前10時30分から垂水市の現地で垂水港「垂水大橋」の開通式を開く。

きょう、鹿児島市で

県森林審議会

県は10日午前9時30分から、鹿児島市の県市町村自治会館で県森林審議会を開く。審議は14年度県森林・林業施設の概要などの説明を予定している。

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ